総合診療部

和田晃

総合診療部は、これまで各診療科、当直、研修医が個別に行っていた診療のうち、一般救急の中で専門診療科の特定が困難な症例や合併症を有する症例の診療を行い、また一般内科の初診症例の初療を担当する。このために内科全般についての広い知識・技能を核としさまざまな患者の状態に対応できる総合診療医として、救急患者の初療や症候診断、複数疾患を有する患者の診療能力を幅広く身につけた医師の育成を目指す。研修医、専修医に対しては総合診療医としての診断能力、治療手技の習得を目指す研修の場を提供している。

【2011年度研究発表業績】

A-0

Morlighem JÉ, Aoki S, Kishima M, Hanami M, Ogawa C, Jalloh A, Takahashi Y, Kawai Y, Saga S, Hayashi E, Ban T, Izumi S, <u>Wada A</u>, Mano M, Fukunaga M, Kijima Y, Shiomi M, Inoue K, Hata T, Koretsune Y, Kudo K, Himeno Y, Hirai A, Takahashi K, Sakai-Tagawa Y, Iwatsuki-Horimoto K, Kawaoka Y, Hayashizaki Y, Ishikawa T. Mutation analysis of 2009 pandemic influenza A(H1N1) viruses collected in Japan during the peak phase of the pandemic. PLoS One 2011, 6: e18956 (2011 年 4 月)

Sugiura, T, <u>Wada A.</u> Resistive index predicts renal prognosis in chronic kidney disease: <u>results of a 4-year follow-up.</u> Clin Exp Nephrol 2011, 15:114-120(2011 年 2 月)

Bamba Y, Nonaka M, <u>Nakajima S</u>, Yamasaki M. Three dimensional-reconstructed CT-MR fusion image –based preoperative planning for surgical procedures for spinal lipoma or tethered spinal cord after myelomeningocele (MMC) repair. Neurol Med Chir(Tokyo) 2011, 51:397-402 (2011 年 5 月)

Yamanaka K, Ishihara M, <u>Nakajima S</u>, Yamasaki M, Yoshimine T. Coil embolization of a traumatic intracranial aneurysm of the distal part of the azygos anterior cerebral: Report of a case followed up for 4 years. Neurol Med Chir(Tokyo) 2011, 51:572-575 (2011 年 8 月)

Yamanaka K, Ishihara M, <u>Nakajima S</u>, Yamasaki M, Yoshimine T. Brain abscess following intra-arterial thrombolytic treatment for acute brain ischemia: A case report. Joranal of Clinical Neuroscience 2011, 18:968-970(2011 年 7 月)

Ishihara M, Yamanaka K, <u>Nakajima S</u>, Yamasaki M. Intracranial hemorrhage after intra-arterial administration of fasudil for treatment of cerebral vasospasm following subarachnoid hemorrhage: a sreious adverse event. Neuroradiology, published online:2011, 24 March (2011 年 3 月)

Yamanaka K, Yamamoto A, Usguda K, Matsuzaki J, Ozaki T, Ishihara M, Shimahara Y, Nakajima S, Sadamitsu D, Yamasaki M. Successful endovascular therapy of a penetrating zone III jugular bulb injury:

Case Report. Interventional Neuroradiology, published online: 2011, 20 November (2011 年 11 月)

A-3

馬場庸平、埜中正博、永野大輔、尾崎友彦、押田奈都、角野喜則、山際啓典、金村米博、山中一功、森内秀祐、中島 伸、山崎麻美:レジデント教育への手術計画ソフトウェア iPlan® cranial の活用. 脳神経外科速報 21(3):310-314、2011 年 3 月

A-6

<u>中島伸</u>: 脳外科 Q&A 明るいなやみ相談室(第12回)「脳神経外科速報」21(2):219、2011 年2月

<u>中島 伸</u>: 脳外科 Q&A 明るいなやみ相談室(第14回)「脳神経外科速報」21(4):453、2011 年4月

<u>中島 伸</u>: 脳外科 Q&A 明るいなやみ相談室 (第 15 回)「脳神経外科速報」21(5):575、2011 年 5 月

<u>中島伸</u>: 脳外科 Q&A 明るいなやみ相談室(第16回)「脳神経外科速報」21(6):691、2011 年6月

<u>中島伸</u>: 脳外科 Q&A 明るいなやみ相談室(第18回)「脳神経外科速報」21(8):931、2011 年8月

<u>中島伸</u>:手術室で「あってはならない」3つの出来事(その1)「レジデントノート」12(13):2310-2312、2011年1月

<u>中</u>島 伸: 手術室で「あってはならない」3 つの出来事(その 2)「レジデントノート」12(15):2717-2719、2011 年 2 月

<u>中島 伸</u>:スライド発表におけるイラスト作成法「レジデントノート」12(16):2886-2887、2011 年 3 月

中島 伸: 医療における天・地・人「レジデントノート」12(1):167-169、2011年4月

中島 伸:停電だ! 「レジデントノート」12(3):603-605、2011年5月

<u>中島伸</u>:睡眠時無呼吸症候群について(その1) 「レジデントノート」13(4):771-773、2011年6月

<u>中島伸</u>:睡眠時無呼吸症候群について(その2) 「レジデントノート」13(5):939-941、2011年7月

<u>中島 伸</u>:初期診療トライアル(その 1) 「レジデントノート」13(7):1287-1289、2011 年 8 月

<u>中島 伸</u>:初期診療トライアル(その 2) 「レジデントノート」13(8):1477-1479、2011 年 9 月

中島 伸:軽症くも膜下出血の診断 「レジデントノート」13(9):1650-1652、2011年10月

<u>中島 伸</u>:知って得する疾患 「レジデントノート」13(11):2134-2136、2011 年 11 月

中島 伸:ワールドカフェに行ってきた 「レジデントノート」13(12):2320-2322、2011年12月

中島 伸:日常生活の中の非日常 「レジデントノート」13(13):2494-2496、2012年1月

中島 伸:片側の眼瞼下垂 「レジデントノート」13(15):2876-2878、2012年2月

中島 伸:モック・トライアル (その1) 「レジデントノート」13(16):3040-3042、2012年3月

B-2

SAKAI K, TAKAMATSU A, NAKANO C, YAMATO M, <u>WADA A</u>, ITO T. Serum concentration of immunoglobulin M at first visit is a predictor for time-to-remission in adult minimal change nephrotic syndrome. World Congress of Nephrology, Vancouber BC, Canada, 2011 年 4 月

B-3

型中正博、横田千里、角野喜則、木谷知樹、押田奈都、森 康輔、山中一功、<u>中島伸</u>、山崎麻美、吉峰俊樹:乳児期と小児期水頭症に対する内視鏡治療の選択。社団法人日本脳神経外科学会第 70 回学術総会、横浜、2011 年 10 月

型中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森 康輔、<u>中島伸</u>、山崎麻美、吉峰俊樹:先天性及び小児期の水頭症に対する内視鏡第三脳室底開窓術の長期治療成績。第 18 回日本神経内視鏡学会、岡山、2011 年 11 月

B-4

倭成史、木村圭一、荒田夕佳、川口彩子、中野知沙子、酒井佳奈紀、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:透析導入期に著明な高 Mg 血症とともに血小板減少を呈した一例。第 56 回日本透析医学会学術集会、横浜、2011 年 6 月

中野知沙子、高松彩子、酒井佳奈紀、倭成史、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:特発性微小変化型ネフローゼ症 候群における血尿持続期間に影響する要因。第54回日本腎臓学会学術総会、横浜、2011年6月

荒田夕佳、川口彩子、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:腎機能が血清 CEA 値に与える定量的影響の評価。第 54 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2011 年 6 月

酒井佳奈紀、荒田夕佳、川口彩子、中野知沙子、倭成史、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:成人微小変化型ネフローゼ症候群における寛解予測因子—初診時血清 IgM 濃度。第 54 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2011 年 6 月

木谷知樹、埜中正博、金村米博、横田千里、角野喜則、押田奈都、森 康輔、山中一功、<u>中島伸</u>、山崎麻美:脳腫瘍生検術における内視鏡下生検術の侵襲度および診断率に関する考察。社団法人日本脳神経外科学会第70回学術総会、横浜、2011年10月

角野喜則、埜中正博、金村米博、正札智子、馬場庸平、永野大輔、山崎麻美、<u>中島伸</u>:高齢者悪性神経膠腫に対する遺伝子解析とテーラーメード治療への応用の検討。社団法人日本脳神経外科学会第70回学術総会、横浜、2011年11月

横田千里、埜中正博、角野喜則、木谷知樹、馬場庸平、押田奈都、森 康輔、金村米博、山中一功、 中島伸、山崎麻美:水頭症に合併した脊髄空洞症に対する内視鏡下第三脳室底開窓術の有用性の検 討。社団法人日本脳神経外科学会第70回学術総会、横浜、2011年10月

金村米博、正札智子、兼松大介、松本有佳子、山本篤世、埜中正博、森内秀祐、<u>中島伸</u>、末水洋志、中村雅登、岡田洋平、岡野栄之、山崎麻美:ヒトiPS 細胞を応用したヒトグリオーマ幹細胞の薬剤感受性評価。第29回日本脳腫瘍学会学術集会、岐阜、2011年11月

森鑑二、金村米博、正札智子、泉本修一、埜中正博、森内秀祐、<u>中島伸</u>、山崎麻美、有田憲生:膠 芽腫における MGMT 遺伝子 promoter 領域メチル化の定量的評価の試み。第 29 回日本脳腫瘍学会学 術集会、岐阜、2011 年 11 月

埜中正博、馬場庸平、横田千里、木谷知樹、押田奈都、森康輔、金村米博、山崎麻美、<u>中島伸</u>、吉峰俊樹:三次元融合画像とナビゲーションガイド下に留置したマーカーを利用した神経膠腫摘出術。 第 29 回日本脳腫瘍学会学術集会、岐阜、2011 年 11 月

山崎麻美、埜中正博、押田奈都、角野喜則、馬場庸平、<u>中島伸</u>:小児虐待による頭部外傷の臨床分析。社団法人日本脳神経外科学会第70回学術総会、横浜、2011年10月

森康輔、埜中正博、山際啓典、山中一功、横田千里、角野喜則、木谷知樹、押田奈都、<u>中島伸</u>、山崎麻美、吉峰俊樹:合併症低減を目指した外減圧術の方法。社団法人日本脳神経外科学会第 70 回 学術総会、横浜、2011 年 10 月

森康輔、埜中正博、山際啓典、山中一功、横田千里、角野喜則、木谷知樹、押田奈都、<u>中島伸</u>、山崎麻美、吉峰俊樹:合併症低減を目指した外減圧術の方法。社団法人日本脳神経外科学会第 70 回 学術総会、横浜、2011 年 10 月

横田千里、埜中正博、押田奈都、木谷知樹、<u>中島伸</u>、山崎麻美:先天性疾患に伴う脊髄空洞症を合併した水頭症に対する内視鏡下第三脳室底開窓術が有効であった3例。第18回日本神経内視鏡学会、岡山、2011年11月

横田千里、埜中正博、楠木重範、中島伸、多和昭雄、山崎麻美:診断に苦慮した急性白血病の中枢

神経再発例。第29回日本こども病院神経外科医会、大阪、2011年11月

押田奈都、埜中正博、横田千里、<u>中島伸</u>、山崎麻美: 脊髄髄膜瘤に伴う水頭症に対して ETV、シャント抜去を行った 6 例の検討。第 29 回日本こども病院神経外科医会、大阪、2011 年 11 月

型中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森康輔、<u>中島伸</u>、山崎麻美:乳児期の水頭症に対する Aesculap ProGAV バルブの使用経験と本システム使用時の工夫。第 29 回日本こども病院神経外科医会、大阪、2011 年 11 月

B-5

埜中正博、馬場庸平、角野喜則、押田奈都、森 康輔、山崎麻美、<u>中島伸</u>:頭蓋底外科領域における三次元融合画像を用いた手術シュミレーションの有用性。第23回日本頭蓋底外科学会、大阪、2011年6月

<u>綿島史子、重原万葉、小笠原充幸</u>、永松麻紀、<u>西本真由美、河野匡子、松本謙太郎、中島伸、和田</u> <u>晃</u>: D-dimer 高値より診断が導かれたパルボウイルス感染後のクリオグロブリン血症の1例。第196 回日本内科学会近畿地方会、京都、2011年12月

B-6

倭 成史、峰松佑輔、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:急性呼吸不全を呈した薬剤性肺障害に対して長時間 PMX-DHP 療法を施行した 2 例。第 77 回大阪透析研究会、大阪、2011 年 9 月

倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁、峰松佑輔、黒岩拓真、森耕平、 湊拓巳、田岡幸恵、岡田俊樹: DIC を併発した敗血症性ショックに対する PMX-DHP とトロンボモ デュリンアルファ(rTM)による併用療法(経時的な血中 HMGB-1、IL-6 の推移)。第 16 回エンドト キシン血症救命治療研究会、東京、2012 年 1 月

中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:無ヘパリン血液透析導入を行った HIV 陽性血友病 A の 1 症例。第 77 回大阪透析研究会、大阪、2011 年 9 月

中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:無ヘパリン血液透析導入を行った HIV 陽性血友病 A の 1 症例。第 41 回日本腎臓学会西部学術大会、徳島、2011 年 10 月

藤村龍太、倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁:急激な腎機能低下の進行を示した本態性クリオグロブリン血症の一例。第41回日本腎臓学会西部学術大会、徳島、2011年10月

荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、水野香織、池田弘和、井上信正、<u>和田晃</u>、伊藤孝仁: 5年間に2回のAKIを発症しいずれも透析離脱しえた骨髄腫の1例。第78回大阪透析研究会、大

阪、2011年3月

角野喜則、埜中正博、永野大輔、馬場庸平、押田奈都、金村米博、山中一功、山崎麻美、<u>中島伸</u>: 錐体骨部分削除を併用した側頭下経由法にて摘出した海馬びまん性神経膠腫の一例。第 61 回日本 脳神経外科学会近畿支部会、大阪、2011 年 4 月

永野大輔、埜中正博、角野喜則、馬場庸平、押田奈都、森康輔、金村米博、山中一功、<u>中島伸</u>、山 崎麻美: 内視鏡下第三脳室底開窓術を実施することでシャント抜去に至った脊髄髄膜瘤随伴水頭症 の一例。第 61 回日本脳神経外科学会近畿支部会、大阪、2011 年 4 月

B-7

森康輔、山中一功、角野喜則、押田奈都、横田千里、木谷知樹、金村米博、埜中正博、中島伸、山崎麻美: Neuronavigation software "iPlan"を使用した無造影頚動脈 STENT 留置術 (CAS)。第71回 大阪大学脳神経外科関連施設臨床懇話会、大阪、2011年7月

型中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森 康輔、金村米博、山中一功、<u>中島伸</u>、山崎麻美:細隙脳室症候群(slit ventricle syndrome)に対し内視鏡下第三脳室底開窓術を行った一例。第 72 回 大阪大学脳神経外科関連施設臨床懇話会、大阪、2012 年 1 月

型中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森 康輔、金村米博、山中一功、<u>中島伸</u>、山崎麻美:細隙脳室症候群(slit ventricle syndrome)に対し内視鏡下第三脳室底開窓術を行った一例。第72回 大阪大学脳神経外科関連施設臨床懇話会、大阪、2012年1月

B-8

<u>中島伸</u>: 診療部門の状況。国立病院機構近畿ブロック事務所平成 23 年度事務職 2 年目研修、大阪、 2011 年 6 月

中島伸:脳神経外科二次救急を開始して。第20回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2011年6月

中島伸: ワールド・カフェとは? 国立病院機構本部平成23年度医師共同宿泊研修、裾野、2011年9月

<u>中島伸</u>:日常診療に生かす脳神経外科の知識。 大阪市阿倍野区医師会学術講演会、大阪、2011 年9月

<u>中島伸</u>: ワールド・カフェとは? 平成 23 年度近畿ブロック副看護師長新任研修、大阪、2011 年 10 月

<u>中島伸</u>: 日常診療に生かす神経学的所見のとり方 平成23年度日本医師会生涯教育講座病院実習、 大阪、2011年10月 <u>中島伸</u>: ワールド・カフェとは? 平成 23 年度近畿ブロック医療技術研修「インフォームド・コンセント」、大阪、2011 年 11 月

<u>中島伸</u>: インフォームド・コンセントと患者満足度。 平成 23 年度近畿ブロック医療技術研修「インフォームド・コンセント」、大阪、2011 年 11 月

中島伸: 医療事故後の警察対応。 平成 23 年度良質な医師を育てる研修「医療事故発生後の対応 シミュレーション、堺、2011 年 11 月

中島伸:記者会見の準備。 平成 23 年度良質な医師を育てる研修「医療事故発生後の対応シミュレーション、堺、2011 年 11 月

<u>中島伸</u>: ワールド・カフェとは? 国立病院機構近畿ブロック事務所平成23年度医療安全管理研修、 堺、2011年12月

中島伸: 事故に学ぶ医学知識。 国立病院機構近畿ブロック事務所平成 23 年度医療安全管理研修、 堺、2011 年 12 月

<u>中島伸</u>:日常診療に役立つ脳神経外科の知識。大阪市生野区医師会学術講演会、大阪、2012年1月

中島伸:開示に耐えうるカルテ記載について。 南和歌山医療センター平成 23 年度医療安全研修会、田辺、2012 年 2 月

中島伸: 脳脊髄液減少症 平成 23 年度大阪市教育センター養護教諭・養護職員研修会(2)、大阪、2012 年 3 月

B-9

和田晃:ネフローゼ症候群。読売テレビ「サンデードクター」、2011年7月

腎臓内科

伊藤 孝仁

国立病院機構の政策医療ネットワークにおいて本院は近畿地区の腎疾患の専門医療施設に位置付けられている。腎臓内科の診療業務は、(1)慢性進行性腎疾患の診断と治療、(2)血液透析あるいは腹膜透析導入、(3)腎機能障害者(維持透析中ならびに非透析期)における合併症の予防ならびに診断と治療、(4)急性腎障害(Acute Kidney Injury、急性腎不全)の治療、(5)ネフローゼ症候群の診断と治療、(6) HIV診療、等である。以下、上記の番号に対応させて記載する。

- (1)慢性進行性腎疾患に対する医療は厚生労働省においても重要視されている。具体的疾患として、IgA腎症、糖尿病性腎症、高血圧性腎症(腎硬化症)、多発性嚢胞腎、などが含まれる。IgA腎症の治療戦略と予後については全国規模で研究が進んでおり、当科も参加している。糖尿病性腎症に関しては血糖管理と血圧管理が重要なウエイトを占め、より徹底した治療の普及を目指している。
- (2) 腹膜透析治療は血液透析と異なる利点を有しており、現状より普及度を高める価値がある。 腹膜透析に関して大阪府下複数施設の連携で新規に臨床研究プロジェクトを当院主導で開始しつ つある。
- (3)維持透析患者に血管合併症が多いことは以前より知られていたが、近年、保存期の腎機能障害者あるいは蛋白尿・微量アルブミン尿陽性患者において心血管イベントリスクが高まることが重要視されている。当科は、リスク低減あるいは心血管イベントの予防・早期診断治療、を目標に、高品質な医療を提供できるよう努めている。心血管イベントのリスクが高める病態メカニズムとして、カルシウム・リン代謝の異常が指摘されている。CKD-MBD(chronic kidney disease mineral and bone disorder、慢性腎臓病の骨ミネラル代謝異常)と包括概念化されており、カルシウムおよびリンの管理を強化した診療を行っている。
- (4) 当院では多数の急性腎障害例がみられる。日常診療を通じて院内の治療成績向上に寄与したい。実際にはエンドトキシン吸着カラムと新世代の抗凝固薬であるトロンボモデュリンを組み合わせることにより、急性腎障害の回復並びに救命成績を大幅に向上させた。この手法について現在学会等で積極的に報告を行っている。
- (5) ネフローゼ症候群ではステロイド治療が行われ、寛解導入まで数週以上の長期間を要する。 これまで治療効果の予測が経験的であったが、我々は過去の治療症例をレトロスペクティブに解析 することで、新たに予測指標となりえる診療マーカーを探索した。
- (6) 当院は HIV 感染症の拠点病院であり、多くの HIV 感染者を治療している。HIV 感染治療を 行う免疫感染症内科と連携し、HIV 治療における合併症—低リン血症および腎機能障害—に対する 介入を行っている。着実に治療成績向上に寄与している。

【2011年度研究発表業績】

A-3

安武健一郎、西山愛美、本村しほみ、片山正哉、力武 修、<u>伊藤孝仁</u>:慢性腎臓病の食事療法基準からみた維持血液透析患者の栄養素摂取量の実態:たんぱく質・エネルギー消費状態 (PEW) の視点から 透析会誌 44: P1077-1084、2011 年 11 月

<u>伊藤孝仁</u>: 私たちの栄養指導ツールと指導報告書「リンビンゴ」 伊藤孝仁 Nutrition Care 4: P52-55、2011 年

B-2

Makino J, Makino K, <u>Ito T</u>. Low protein catabolic rate and high level of serum phosphorus independently worsen arterial stiffness in hemodialysis patients. EDTA-ERA Congress, Prague, Czech Republic, 2011 年 6 月

SAKAI K, TAKAMATSU A, NAKANO C, YAMATO M, WADA A, ITO T. Serum concentration of immunoglobulin M at first visit is a predictor for time-to-remission in adult minimal change nephrotic syndrome. World Congress of Nephrology, Vancouber BC, Canada, 2011 年 4 月

B-4

<u>倭成史</u>、木村圭一、<u>荒田夕佳、川口彩子</u>、<u>中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁</u>: 透析導入期に著明な高 Mg 血症とともに血小板減少を呈した一例。第 56 回日本透析医学会学術集会、横浜、2011 年 6 月

<u>中野知沙子、高松彩子、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁</u>: 特発性微小変化型ネフローゼ症 候群における血尿持続期間に影響する要因。第54回日本腎臓学会学術総会、横浜、2011年6月

<u>荒田夕佳、川口彩子、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁</u>:腎機能が血清CEA値に与える定量的影響の評価。第54回日本腎臓学会学術総会、横浜、2011年6月

<u>酒井佳奈紀、荒田夕佳、川口彩子、中野知沙子、倭成史、和田晃、伊藤孝仁</u>:成人微小変化型ネフローゼ症候群における寛解予測因子—初診時血清 IgM 濃度。第 54 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2011 年 6 月

牧野順一、牧野邦司郎、<u>伊藤孝仁</u>: リン摂取量が血清アルブミン(Alb)値に与える影響〜リンビンゴ 使用による調査〜。第56回日本透析医学会総会、横浜、2011年6月

牧野順一、牧野邦司郎、<u>伊藤孝仁</u>: リンビンゴによるリン摂取量評価の個人間および個人内変動。 第56回日本透析医学会総会、横浜、2011年6月

菊池友理子、出町江里、柏木彩、坂本杏子、橋本英子、<u>伊藤孝仁</u>、角田政隆、橋本史生: リン摂取量管理の新しい診療ツール「リン・ビンゴ」の有用性。第 56 回日本透析医学会総会、横 浜、2011 年 6 月

B-6

<u>倭成史</u>、峰松佑輔、<u>荒田夕佳</u>、<u>中野知沙子</u>、<u>酒井佳奈紀</u>、<u>和田晃</u>、<u>伊藤孝仁</u>:急性呼吸不全を呈した薬剤性肺障害に対して長時間 PMX-DHP 療法を施行した 2 例。第 77 回大阪透析研究会、大阪、

<u>倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁</u>、峰松佑輔、黒岩拓真、森耕平、 湊拓巳、田岡幸恵、岡田俊樹: DIC を併発した敗血症性ショックに対する PMX-DHP とトロンボモ デュリンアルファ(rTM)による併用療法(経時的な血中 HMGB-1、IL-6 の推移)。第 16 回エンドト キシン血症救命治療研究会、東京、2012 年 1 月

<u>中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁</u>:無ヘパリン血液透析導入を行ったHIV陽性血友病Aの1症例。第77回大阪透析研究会、大阪、2011年9月

<u>中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁</u>:無ヘパリン血液透析導入を行ったHIV陽性血友病Aの1症例。第41回日本腎臓学会西部学術大会、徳島、2011年10月

藤村龍太、<u>倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁</u>:急激な腎機能低下の進行を示した本態性クリオグロブリン血症の一例。第41回日本腎臓学会西部学術大会、徳島、2011年10月

荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、水野香織、池田弘和、井上信正、和田晃、伊藤孝仁: 5年間に2回のAKIを発症しいずれも透析離脱しえた骨髄腫の1例。第78回大阪透析研究会、大阪、2011 年3月

日比野賢嗣、<u>酒井佳奈紀、荒田夕佳、中野知沙子、倭成史、伊藤孝仁</u>:インフルエンザワクチンの 関与が疑われた半月体形成性糸球体腎炎と急性尿細管間質性腎炎の1例。第196回日本内科学会近畿 地方会、京都、2011年12月

B-8

<u>倭成史</u>: 抗サイトカイン血症の制御を念頭においた治療戦略〜HMGB1 を中心として〜。敗血症治療の UP to DATE、大阪、2012 年 3 月

B-9

和田晃:ネフローゼ症候群。読売テレビ「サンデードクター」、2011年7月

糖尿病内科

瀧 秀樹

糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、OOL改善に取り組んでいる。

国立病院機構の共同研究として糖尿病性腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立 (HBP-DN)、DPP-4 阻害薬による膵β細胞保護効果の検討、2 型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討に参加している。内分泌領域として、国立病院機構の学会ガイドラインに基づく原発性アルドステロン症の診断と効果的な薬物治療法の確立(PHAS-J2)に参加している。

【2011年度研究発表業績】

A-4

瀧秀樹:手術実施の可否「糖尿病ケア」8(8):P.18-20、メディカ出版、2011年8月

加藤研:手術侵襲(ストレス)「糖尿病ケア」8(8):P53-55、メディカ出版、2011年8月

B-4

阪口友香子、<u>瀧秀樹</u>、川口祥平、下直樹、岡野理江子、良本佳代子、久保田昌詞、大橋誠、野村誠:2型糖尿病患者のLDL-C管理・介入効果に関する検討-近医紹介教育入院症例での検討-。 第54回日本糖尿病学会年次学術集会、札幌、2011年5月

下直樹、阪口友香子、川口祥平、<u>瀧秀樹</u>、岡野理江子、良本佳代子、久保田昌詞、大橋誠、野村誠: 2型糖尿病患者におけるシタグリプチンの食前・食後血糖値および食事負荷後血糖値・インスリン 分泌に対する臨床的効果の検討。第54回日本糖尿病学会年次学術集会、札幌、2011年5月

川口祥平、<u>瀧秀樹</u>、阪口友香子、下直樹、岡野理江子、良本佳代子、久保田昌詞、大橋誠、野村誠: 軽症2型糖尿病患者におけるシタグリプチンの食後高血糖改善効果。第 54 回日本糖尿病学会年次 学術集会、札幌、2011 年 5 月

良本佳代子、岡野理江子、阪口友香子、川口祥平、下直樹、<u>瀧秀樹</u>、久保田昌詞、大橋誠、野村誠: インスリン抵抗性と酸化ストレスおよび抗酸化能の関係について。第 54 回日本糖尿病学会年次学 術集会、札幌、2011 年 5 月

B-6

重原万葉、森本竹紗、加藤研、瀧秀樹:後期ダンピング症候群に対し α グルコシダーゼ阻害薬(Miglitol) が有効であった 2 症例。第 48 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2011 年 10 月

森本竹紗、重原万葉、加藤研、瀧秀樹: 反応性低血糖にミグリトールを使用し CGMS にて血糖変動を観察した 2 症例。第 48 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2011 年 10 月

<u>瀧秀樹</u>:糖尿病患者の心疾患予防-食後高血糖と脂質管理-。第 5 回中央区開業医病診連携の会、 大阪、2011 年 6 月

加藤研:糖尿病 最近の話題-大阪医療センターでの取り組み-。糖尿病治療クリニカルカンファレンス 大阪、2011年6月

<u> 瀧秀樹</u>: インクレチン製剤の使用経験。第 62 回なにわ Doctor's Network、大阪、2011 年 6 月

下直樹、阪口友香子、川口祥平、<u>瀧秀樹</u>、岡野理江子、良本佳代子、久保田昌詞、大橋誠、野村誠: 2型糖尿病患者におけるシタグリプチンの食前・食後血糖値および食事負荷後血糖値・インスリン分泌に対する臨床的効果の検討。第5回大阪糖尿病臨床カンファレンス、大阪、2011年8月

重原万葉、森本竹紗、加藤研、瀧秀樹:後期ダンピング症候群に対し α グルコシダーゼ阻害薬(Miglitol) が有効であった 2 症例。第 5 回大阪糖尿病臨床カンファレンス、大阪、2011 年 8 月

<u>瀧秀樹</u>:新・2型糖尿病患者の薬物療法-体重増加抑制を目指して-。大阪市東医師会学術講習会、 大阪、2011年9月

加藤研: 当科における最近の取り組みについて-CGMS, CSII の紹介と糖尿病行事への当科医師の参加報告-。第4回中央区糖尿病地域連携フォーラム 大阪、2011年10月

<u>瀧秀樹</u>:日常診療おける課題~インクレチン関連薬の好適症例~。患者さんと向き合う糖尿病治療、 大阪、2011年11月

加藤研:病院紹介 当院における最近の取り組みーインクレチン製剤,CGMS,CSII の導入から地域連携まで-。第1回中央線糖尿病連携座談会 大阪、2011年11月

<u>加藤研</u>: 当院におけるカーボカウント指導の現状。中央区カーボカウントカンファレンス 大阪、2012年2月

加藤研:大阪難病相談会~1型糖尿病を取り巻く環境。大阪、2012年3月

<u>瀧秀樹</u>:良質な糖尿病治療を目指して~心腎疾患の予防~。Meet The Expert 糖尿病専門医の処方を 学ぶ、大阪、2012 年 3 月

血液内科

井上 信正

血液疾患(造血器悪性腫瘍、貧血および出血性疾患等)の治療を行っている。血液疾患、特に造血器悪性腫瘍の治療は造血幹細胞移植の出現以後、単クローン抗体による治療、分子標的治療と進歩が著しい。また、従来行われている化学療法の成績も良好で一部の疾患では化学療法単独での治癒も稀ではない。しかし、高齢者や合併症を有する症例および化学療法に対する感受性が悪い例の治療法が今後の問題として残されている。我々の治療方針は造血器悪性疾患では同種末梢血幹細胞移植等、治癒を目指す最新の治療法を積極的に行うと共に、後者のような症例については QOL を重視した治療法の選択を考慮している。血液内科では大学病院や血液内科を標榜する専門病院と同等のレベルの治療を行い、一方個々の患者様とのコミュニケーションはそれ以上のものを保つように常に努力し、原則として疾患の種類や重症度で大学病院など他院に紹介する事は行わず、専門外の疾患を除いたすべての血液疾患を本院で加療するように心がけている。

呼吸器内科

小河原 光正

呼吸器悪性腫瘍(肺癌,胸膜中皮腫など)を専門として診療を行っており、呼吸器外科、放射線診断科、放射線治療科、臨床検査科と協同で肺癌の診断及び集学的治療を行っている。また、気管支鏡診断に力を入れている。呼吸器外科と共同で肺癌の診断と治療に関する研究発表、症例報告を行った。

また、当院の感染症科が HIV/AIDS 診療において西日本の中心施設で多数の症例を診療しており、HIV/AIDS には様々な呼吸器病変を合併し、特に結核の合併が重要な問題であるためクォンティフェロンに関する研究を行い発表した。また、国立病院機構共同研究、大阪大学呼吸器内科/大阪府立成人病センター、徳島大学呼吸器・膠原病内科、近畿中央胸部疾患センターなどから依頼された多施設共同臨床試験へも参加・協力した。東北大学・徳島大学のがん診療の経済的な負担に関するアンケート調査(厚生科研濃沼班)研究に協力した。

【2011年度研究発表業績】

B-4

<u>木村剛、小河原光正、宮本智、安藤性實</u>、笠井大介、上平朝子、白阪琢磨、大宮英泰、高見康二、 <u>小幡紗貴子</u>、田中恒二、真能正幸:クォンティフェロン TB-2G 測定結果の検討。第 51 回日本呼吸 器学会学術講演会、東京、2011 年 4 月

高見康二、大宮英泰、<u>小河原光正</u>、真能正幸、徳永俊照、前田純、岡見次郎、東山聖彦、中森正二、 辻仲利政、児玉憲:胸腺上皮性腫瘍手術例に対する胸腔内洗浄細胞診または心嚢液細胞診の胸膜播 種再発予測に関する検討。第52回日本肺癌学会総会、大阪、2011年11月

大宮英泰、高見康二、辻仲利政、中森正二、<u>小河原光正</u>、栗山啓子、児玉良典、真能正幸:多形癌 および腺癌の同時性多発肺癌の1例。第52回日本肺癌学会総会、大阪、2011年11月

安藤性實、小河原光正、木村剛、宮本智、大宮英泰、高見康二、安井昌義、平尾素宏,栗山啓子、田中英一、児玉良典、真能正幸:肺癌の病期診断時に撮影した FDG PET-CT で偶発的に大腸癌の合併が見つかった 4 例。第 49 回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011 年 10 月

<u>小河原光正、木村剛、安藤性實、宮本智、</u>上平朝子、白阪琢磨:結核病床を有しないエイズ治療ブロック拠点病院におけるクォンティフェロン TB-2G(QFT)測定結果の検討。第25回日本エイズ学会学術集会、東京、2011年11-12月

B-7

<u>小河原光正</u>、<u>木村剛</u>、上平朝子、白阪琢磨:結核病床を有しないエイズ治療ブロック拠点病院におけるクオンティフェロン TB-2G(QFT)測定結果の検討。市民公開講座第 13 回白馬シンポジウム in 札幌、札幌、2011 年 5 月

B-7

<u>小河原光正</u>: 細胞検体をもれなく検査に出すには? なにわ肺癌講演会、大阪、2011年10月

脳卒中内科

多賀谷 昌史

急性期脳梗塞患者さんを対象に Stroke Team での診療を行っています。SCU (Stroke Care Unit: 脳卒中ケアユニット) 6 床が新たに開設され、さらに効率的な治療を目指し日々の診療に努力しています。当院での集中治療(tPA 治療を含む)から回復期リハビリテーションへの継ぎ目のない医療を患者さんに提供することを目的に、2008 年より脳卒中地域連携パスを使用し、より充実した脳卒中診療を行っています。

今後もスタッフ一同、より一層の研鑽を積んで参りたいと考えています。よろしくお願い致します。

【2011年度研究発表業績】

A-0

Okazaki S、Sakaguchi M, <u>Hyun B</u>, <u>Nagano K</u>, <u>Tagaya M</u>, Sakata Y, Sakaguchi T, Kitagawa K. Cerebral microbleeds predict impending intracranial hemorrhage in infective endocarditis. Cerebrovascular Diseases 2011;32:483-488 (2011 年 11 月)

Matsumoto M, Okazaki S, Sakaguchi M, Ohara N, Furukado S, Nagano K, Kuwagata Y, Shimizu T,Yoshimine T, Kitagawa K: Preadmission therapeutic anticoagulation reduces cerebral infarct volume in patioents with nonvalvular atrial fibrillation. European Neurology 2011 66:277-282 (2011 年 12 月)

A-4

永野恵子、長束一行:頸動脈超音波法の活用 The Lipid vol.22 No.2 66-72、2011 年 4 月

B-3

小久保嘉弘、<u>河野雄平</u>、HOSP 研究グループ:朝の家庭収縮期血圧に基づいた高血圧治療の臨床試験 HOSP 研究:心血管イベントの結果。第34回日本高血圧学会総会、宇都宮、2011年10月